蝶と蛾 *Tyô to Ga*, **39** (4): 251－252, 1988

北海道産ベニヒカゲの精原細胞染色体

斎藤和夫

弘前大学理学部生物学教室　〒036　弘前市文京町 3

Spermatogonial Chromosomes of *Erebia niphonica* from Hokkaido (Lepidoptera, Satyridae)

Kazuo SAITOH: Department of Biology, Hirosaki University, Hirosaki, 036 Japan

ベニヒカゲ属(*Erebia*)には類似種が多い．LESSE, H. deとLORKOVIĆ, Z.は欧州のこの属のいろいろな種の染色体を調べ，これらの分類同定には染色体の検索が有効であることを示している．

日本のベニヒカゲの成虫は翅紋の地理的変異に富むのでこれまでたびたび調査されている．しかしこれら個体群の染色体の知見はない．以前，LESSE (1961)が*Erebia niphonica* JANSON の雄の染色体数をn, ca 19と報告しているが，学名の後に(Japon)と付記されているだけなのでこの材料の産地の詳細は明らかでない．

1985年8月1日に北海道上士幌町字三股で採集されたベニヒカゲ成虫雄の精子形成の状態を調査したところ精原細胞の染色体が観察されたので報告する．観察はパラフィン切片(PFA-3液固定，8μm，Heidenhainの鉄ヘマトキシリン染色）で行ない，染色体のスケッチにはAbbeの描画装置を使用した．

3雄で染色体がみられ，各雄ともそれぞれ精原細胞の2核板で中期染色体が観察された．染色体数はすべて2n, 38である．これらのうちの1核板の染色体のスケッチをFig.1に示した．各染色体は小型で円形内至卵形である．形態上特に注意を引く染色体はみられない．また，これらの精巣内には精母細胞がほとんどみられず，減数分裂の染色体は全く観察されなかった．なお，札幌市産のベニヒカゲでも同じ染色体数が確かめられている（未発表）．

この三股の材料の採集と精巣の固定をお願いした鈴樹亨純氏及び有益な教示をいただいた舘山一郎氏にお礼を申し上げる．
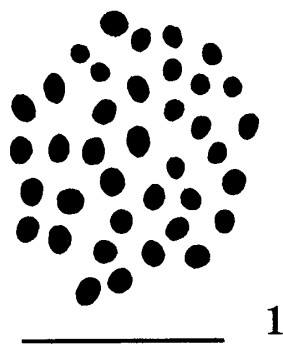
Fig.1. Spermatogonial metaphase complement of *Erebia niphonica* from Mitsumata, Hokkaido. 2n, 38. Scale bar: 5μm.

文　　献

LESSE, H. de, 1961. Signification supraspécifique des formules chromosomiques chez les Lépidoptères. *Bull. Soc. ent. Fr.*, **66**: 71－83.

Summary

Diploid germ-line chromosomes were observed in males of the satyrid, *Erebia niphonica*, from Mitsumata, Kamishihoro-chô, Hokkaido.

The chromosome number of $2n$, 38 was determined, based on counts in six spermatogonia from three males. One of the diploid complements examined was shown in the figure.